

2010年、南アフリカ共和国初のワールドカップを開催するアフリカ。貧困や紛争など、ネガティブなイメージが根強いが、新たな研究のフロンティアでもあるアフリカは豊富な天然資源などが脚光を浴び始めている。これまで関係の薄かった日本も、グローバル化の中でアフリカとの距離を詰め始めた。

越境する学生たち

国連は00年、世界の貧困を半減させるため、八つの目標からなる「ミレニアム開発目標」を打ち出した。アフリカの若手研究者や留学生が、新たな研究のフロンティアとしてアフリカに目を向けている。これまでも関係の薄かった日本も、グローバル化の中でアフリカとの距離を詰め始めた。

2010年、アフリカでは……

- 1月 アフリカネイションズカップ2010
- 3月 ガーナ国大統領下アフリカ訪問
- 5月 未定 TICAD（アフリカ開発会議）フォローアップ閣僚会議
- 6～7月 南アフリカ FIFAワールドカップ
- 9月 未定 国連ミレニアムサミット
- 未定 リビア EU・アフリカ首脳会議

を務めた田畑直さん（理Ⅱ2年）は08年夏にケニアで現地との学生と交流した。07年にケニアから来日した学生と話し、彼らの国を見たくなるといった。現地の友人が現地の状況を知らせてくれたことも、安心して行く決意を固めたという。大久保智夫さん（経4年）は来春から2年間、青年海外協力隊に参加してモザンビークに滞在する。「不安はあったが、先輩の話を聞いて、現地で活動する隊員のプロクを見たところ、立ちに気持ちも固まりました」と大久保さんは語る。

異境で人脈築く JICA

異境で人脈築く JICA。JICAの行う援助は、インフラ整備などの住民の基本的な生活に関わるものや、村の名産品を加工したものを販売する活動などで村収入をたやすく活動技術研修を活動活動とが絡むという。また、内戦が終了して間もない国に支援を貸すのも活動の一環。平和を定着させた国では、紛争終結による具体的なメリットを住民に感じてもらおうと活動活動が絡むという。また、内戦が終了して間もない国に支援を貸すのも活動の一環。平和を定着させた国では、紛争終結による具体的なメリットを住民に感じてもらおうと活動活動が絡むという。

若者よ、アフリカを目指せ

2010年のフロンティア



05年3月、エチオピアにて撮影。国連のプロシエクトが女性に小規模作物を栽培するための農業支援を行っている（写真は遠藤教授提供）

実践

外部志向を持って 法・北岡伸一

安全確保策の割り当てを動かす。現在の活動は医療衛生、教育、農業、インフラなど幅広い。貧困など否定的な側面が強調されがちだが「かわいそう」と思うのは間違っている。アフリカは独自のバックグラウンドが残る数少ない地域。全く違う文化と出会うことで、私は日本人も刺激を得られると思う。「広大な国土や資源に加え、人々にパワーが加えられ、新しいフロンティアとしての可能性を感じずにはいられない。外部志向を持ち積極的な援助をすべき」と語る。

教員からの視点・論点

日本独自の可能性ある 養・遠藤 貢

遠藤貢教授（総合文化研究科）は、東大でも数少ないアフリカ研究の専門家。高級時代にエチオピアの内戦や飢饉に関する報道を見て、アフリカに関心を持った。東大入学後、教養学部教養学科第三国際関係論科に進み、大学院へ。学部では南アフリカの政治体制などを研究し、大学院ではアフリカの民主化について研究した。現在の研究対象は、海賊の活動が活発化しているソマリヤの国家形態。無政府状態にもかかわらず、国家自体は認められているという異様な状況だ。二世紀の国家の在り方にソマリヤが二石を投ずる可能性がある。植民地時代から研究を続け、遠藤教授は語る。

研究